

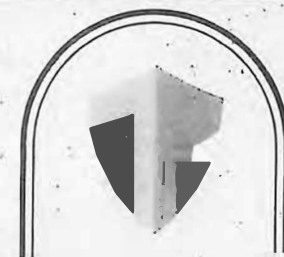
学問の力で、東京から世界の未来を拓く × Tokyo Metropolitan University

企画：朝日新聞社メディアビジネス局  
制作：朝日新聞出版AERAムックチーム

広告特集

2021  
**国公立大学**  
**進学のおすすめ**  
 BUILD YOUR FUTURE

# 東京から世界の未来へ向けて 新たな可能性に挑む



Column

## 学ぶ意識を大きく変え、 成長させる海外研修プログラム

### 東

京都立大学では、理系の大学院生を対象とした海外研修プログラムを毎年実施している。2020年度はコロナ禍ということもあり、海外とのオンライン接続を活用して開催された。

「以前から将来は海外で仕事に就きたいと考えており、コロナ禍で先行き不透明になったなかでも、新たなことにチャレンジしたいと参加を決めました」と話すのは、都市環境科学研究科博士前期課程2年の東しおりさん。

「このプログラムで、私は『高齢者の移動という課題解決』というテーマでマレーシアやシンガポールの大学や企業にプレゼンテーションをしました。そこで私が専門とする機能性高分子材料を生かした小型モビリティの導入を提案したのですが、先方から指摘されたのは『シンガポールでは公共交通網が発達しているので、わざわざ小



都市環境科学研究科博士前期課程2年の東しおりさん(写真左)と野本賢俊さん

型モビリティを利用する人は少ないのでは』ということ。マレーシアでは好評であった提案がシンガポールでは根本的な部分で通用せず、『これが対象とする国が変わったときの難しさか』と思い知らされました」

当初は戸惑いもあったが、共に参加した学生と協力し合い改善を重ねることで、最終日には英語で納得のいく発表ができ、自信につながったという。

「海外の研究者に自ら英語でメールを送ってアポイントメントをとり、水素エネルギーに関わる自分の研究についてディスカッションできたことは大きな経験になりました」

同じく、都市環境科学研究科博士前期課程2年で、博士後期課程への進学を予定している野本賢俊さんは、海外の研究者と交流したいなどの理由から参加を決めた。

野本さんは当初、英語での会話にためらいがあったが、「これでは参加した意味がない」と、間違いを気にせず、自分の研究について積極的に議論するようになった。

「伝えるという意識や努力が大事ななと痛感しました」と野本さん。東さん同様、海外の研究者と直接議論できたことも将来につながる大きな成果だったと話してくれた。